

生命資源研究・支援センター

助教 **吉信公美子**さん

Yoshinobu Kumiko

●プロフィール

1995年 熊本大学理学部生物科学科卒業後、生命資源研究・支援センター
バイオ情報分野に助教として勤務。

熊本大学遺伝子実験施設助手

2003年 熊本大学生命資源研究・支援センターバイオ情報分野助手

2007年 熊本大学生命資源研究・支援センターバイオ情報分野助教



根っから実験が好き。好奇心旺盛の少女は今も健在。

小さな頃から実験や手を動かすことが好きで好奇心旺盛、学研の「科学と学習」を目を輝かせて読んでいたと言う吉信さん。（もともと研究者ではなく、医療系の仕事につきたいと考えていました。）高校の生物の授業の時、細胞の神秘に触れます。「細胞のことがもっと知りたい」と思い理学部を目指しました。そして、卒業研究の時に、実験の面白さ、研究で未知の事柄に触れる面白さを、教官に熱心に指導してもらったことが転機となります。「研究の道へ進もう。身体の中で何が起きているのか見たい」と純粋に興味湧いてきたといいます。ちょうどその頃、平成6年に発足した学内共同利用施設である熊本大学遺伝子実験施設（通称GTC=Gene Technology Center）が、遺伝子実験における技術支援および情報提供を目的に設置されました。「自分自身が先頭を切った研究よりも、他の研究者と共同で成果を出したい、サポートと言う形で支援したい。根っから実験が好きなんです」と助手として就職。研究を進める一方、実験装置の操作やメンテナンス、ホームページ・講習会の開催による情報提供等、遺伝子実験施設の運営・管理を行っています。

研究はトライアンドエラー。

今の施設の運営・管理のほかに吉信さんが取組んでいる研究が、遺伝子トラップ法（遺伝子の機能を探る方法）を用いた遺伝子の研究です。トランスジェニックマウス（ノックアウトマウス＝約2万2000個ある遺伝子情報の一つを破壊したマウス）を作り、発生過程でどんな影響が出るかを追跡、その遺伝子の機能を探る研究です。発生過程の研究では、マウス体内から胚を取り出して、変異を観察したり、解析の材料にしたりします。この作業は繊細さを要しますが、きれいに摘出できたときの喜びと、その胚の美しさに神秘性を感じるといいます。「研究では思うように結果が出せないこともあります。トライアンドエラーで頑張っています。一つ見えた先にまた一つ見えてくるものがあるんです」この施設では9名のスタッフのうち1名が男子学生で他は全員女性です。女性中心の職場なので働きやすい環境と吉信さんはいいです。「回りにはアクティブな人が多く、私も頑張らなくて毎日刺激を受けている」と。

私たちの情報発信で、興味を持ってくれたり後に続く人が増えてくれたら。

GTCでも社会貢献活動としてホームページでイベントの開催や情報発信をしています。ページの管理・更新等、吉信さんが担当。「今はこうしてインターネットで情報を簡単に入手することができるようになりました。興味を持ったことは自分から積極的に調べることが大切です。遺伝子組換え食品など身近な問題として、もっと遺伝子やDNAについて知ってほしい。そして大学が行う体験講座「遺伝子と仲良くなろう」などのイベント等に参加してほしい。そのことがきっかけで、生命科学の研究の道に進む人がひとりでも増えてくれれば、とても嬉しいことです」。



実験室での実験の様子（そーっとDNAを注入する）

もっと遺伝子やDNAと仲良くなろう。